

家庭教育支援者とともに考える『子どものたくましさ』

親学に
チャレンジ

家庭環境の多様化や変化の激しい地域社会の中で、これからの時代を生きる子どもたちは、「たくましさ」を身につけることが必要です。子どもの「たくましさ」とは、集団のなかで切磋琢磨する体験や困難を乗り越える経験などで育まれていくと言われています。本市では、宮っこ未来ビジョンのもと、心豊かでたくましく生きる人を目指して、様々な場所でその実現に向けて取り組んでおり、その中でも、家庭や地域の役割というものが極めて重要になっています。

そこで今号では、自らの子育て経験を生かして、親子で楽しめるイベントの運営や親学講座の講師、託児などの活動を、地域のボランティアとして行っている「家庭教育支援者」の方々に情報誌作成委員になっていただき、「たくましさ」について、自身の子育てや支援者としての経験など、多くの事例をもとにいろいろなお話をさせていただきました。子育てを客観的にみて活動しているため、共感をもてる内容もきっとあると思います。子育ての参考にしてみませんか。

※情報誌作成委員紹介コーナーは、3ページです※

1 子どものたくましさとは!?

皆さんは、「たくましさ」という言葉に、どのようなイメージをもっていますか。「たくましさ=身体的な力強さ」のイメージをお持ちの方もいるのではないのでしょうか。ここでは、作成委員との話の中から出てきた、子どもがもっている「たくましさ」や、子どもとのいろいろな関わりの中から見ることのできる「たくましさ」についてお伝えします。

つらくてもがんばる

◎夢や目標に向かって、部活動や習い事など、子どもなりにがんばっている



環境の変化に対応する

◎進学など環境の変化に、なじみやすい



失敗してもくじけない、がまんする

◎失敗してもあきらめず、すぐに気持ちを切り替えられる



やろうと決めたことは続ける

◎決まったお手伝いを、毎日続けて行う

